

令和4年度

事業報告書

学校法人 郡山学院

令和4年度事業報告

令和4年度は、終盤にコロナ禍がようやく収束傾向に入り、学生・生徒はもちろん職員も一安心となりました。郡山学院高等専修学校(以下、学院と称す)は、被災校舎が5月に解体され、12月に新校舎が完成しました。26年ぶりの新校舎建設です。年度末に引越し、こけら落としを兼ね講堂にて卒業式を行いました。

それでは、本学の事業について要点のみ説明します。

<教学>の面の「入り口」です。ケイセンビジネス公務員カレッジ(以下、ケイセンと称す)は学生募集が、4年連続の前年度割れとなってしまう、平成と令和を通して最低の入学者数を更新してしまいました。このことが、法人全体の不振となっており、最重要課題として全力を挙げ打開策を講じます。学院は、8年連続で定員を確保できました。少子化になっても不登校生は増加傾向あるということを割り引いても、健闘しました。

次に「中身」ですが、ケイセンはようやく公務員試験合格実績で、過去10年で一番の好成績を上げることができました。検定試験合格実績も、各検定結果判明後に検討を講じることにより、上昇の兆しが出てまいりました。恒例の献血は、前年度より13名増え153名に協力してもらいました。防災士養成講座では、3期生が33名合格し、累計で100名を突破しました。在校生や卒業生は防災士として、それぞれ各職場や家庭そして地域で役に立ててもらえることでしょう。学院は、検定試験合格では前年とほぼ同じ成績でした。全国簿記競技大会では、2位の成績でした。献血は、前年度同様100名を超えました。

「出口」では、ケイセンの総合ビジネス学科が、10年連続の就職内定率100%を達成しました。また、卒業式までに全員の進路を決定するとの課題は、進路対策会議を12月から開催することにより、3月末となってしまうましたがほぼ達成できました。学院は、9年連続で進路決定率100%を達成しました。

<経営>の面では、学生・生徒の学納金収入が減少し続けております。新校舎建設費用の自己資金負担等により、剰余金が2割減少となってしまいました。

以上のことを踏まえ、ケイセンと学院が全力を挙げ、改革・改善を進め次年度につなげます。

以下は、令和4年度に本学が行った具体的な事業の説明となります。